

ニムラサラダスナップ

(品種名：ニムラサラダ1号)

ガイドブック

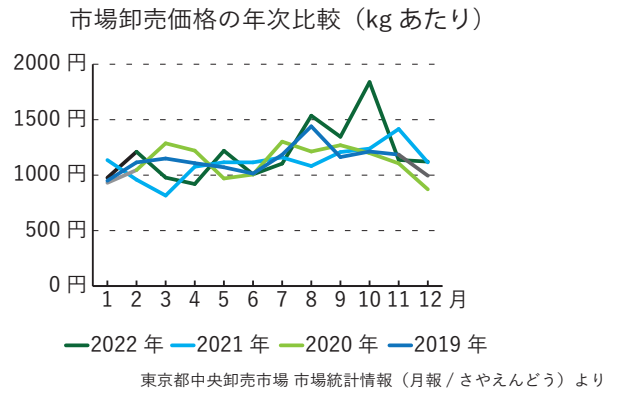
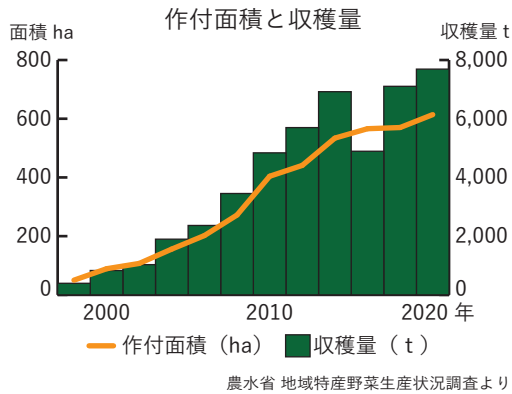
～越冬長期栽培編～



ニムラサラダスナップを作ってみませんか？

価格安定! 需要増

近年、出荷量・作付面積が増えているのに市場価格は年次の差が少なく安定！
需要に対し、まだまだ生産量が少ない証拠！



原油の高騰対策

ハウス利用であれば、最低イチゴ並み (4 ~ 5°C) の温度で栽培できる

10段とれば 10a あたり 1,600kg

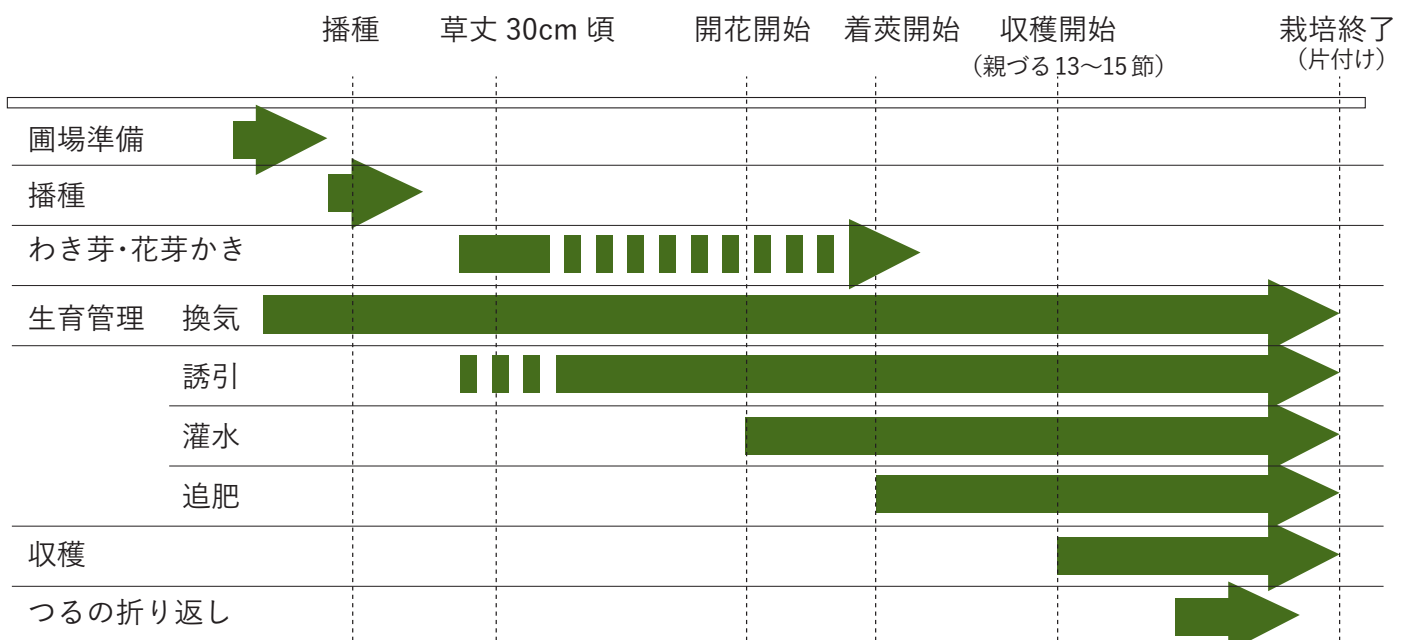
10 a 当たり (畝間 150 cm) 植付長約 700m
 播種 20cm × 3~4 粒 (株間 7~10cm)
 株数 8,000~9,000 株
 1 株 10 段収穫 (20 莖) = 200g
 200g × 8000 株 = 1,600kg

ニムラサラダスナップの魅力

- 夏から春までまくことができ、秋から初夏まで出荷可能。
- 大莖、濃緑で揃いと秀品率が高く収量性も非常によい。
- くせがなく、甘みが強い。

始めに

栽培の流れ (越冬長期栽培の場合)



1

圃場準備

良品収穫には、まず適切な環境づくりから！

- 排水性、通気性、保肥力に優れた土づくりを心がける。
→深耕、高畝とし、有機物を十分に施用する。
- 連作を避け、輪作を実施する。
→連作圃場では土壤消毒を行うこと。
- 最適 pH は 6.5～7.0。土壤分析等実施し、矯正値に準じた石灰等を施す。
→酸性に弱いので、必ず適切な pH に補正すること。
- 比較的多肥に向く品種なので、多めに施肥すると良い。

【10a あたり施肥例（越冬長期栽培の場合）】

苦土石灰……150kg

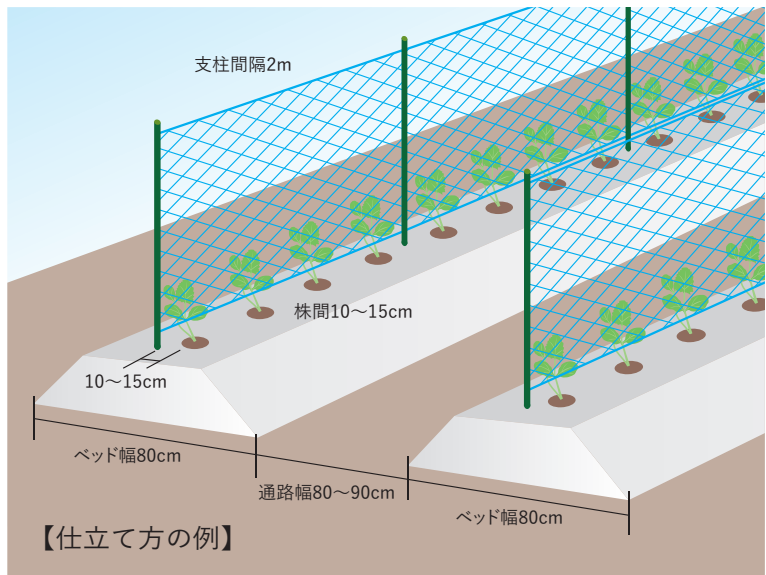
堆肥 ……2～3t

<元肥>

N:P:K =20～30kg : 30～35kg : 20～25kg

<追肥>

着莢後に開始、そのあとは草勢を落とさないように適宜実施。



2

播種

ポイントを押さえ、発芽を揃える！

適期を守り、無理な早まき、まき遅れに注意する。

- 露地栽培の場合、降雨直前直後にはまかない。
(最適な水分状態は土を握って団子状になり、軽くたたくと割れる程度)
※ 播種前に十分灌水し、発芽するまでは灌水を控える。腐敗防止。
- 寒冷紗や敷き藁等で適湿度、適地温を確保する。
- 発芽時の適温は 18～20℃。
※ 株間は 10cm の場合 2 粒まき、20cm であれば 3～4 粒まき。
※ 発芽適温 18～20℃、生育適温 15～20℃、生育気温 5～25℃
- 粒状培土を覆土に利用すると発芽が揃いやすくなる。
- 播種後、支柱を立てネットをビシッと張る。

3

整枝とわき芽摘み・花芽摘み ～初期の管理

長く収穫するために、しっかりと力強い樹を作る！

< 整枝 >

- 発芽後、つるを強風等で痛めないように紐を張り、ネット側に寝かせる。
- 主枝1本仕立てとし、株元からのわき芽（側枝）は除去する。

< 花芽摘み >

- 長期越冬栽培の場合、着莢開始位置は13節を目安とする。
- 13節より下節で着莢させると、草勢が落ちやすくなるため、下節の花芽は除去する（花芽は7節目前後で発生がはじまる）。



4

誘引

つるが折れないよう、小まめに実施

- 草丈の伸長にあわせ、誘引テープでネットと挟むように誘引。
- 芯は太いが折れやすいので、適宜誘引。
- 花の向きを揃えて誘引すると効率的。



花の向きを揃えて誘引できると
収穫作業が非常に効率的！



草勢管理 ～草勢判断の目安



芯（先端）は横向き

茎は太くてがっちり

花はダブルで大きく、揃っている

葉は小葉5～6枚（2.5～3対）



換気

- ハウス栽培では、換気をしっかりと行うこと。
サイド・天窓はもちろん、出入口も開けておくようにする（冷涼な気候が好き）。
- 換気が不十分だと徒長しやすく、着莢も悪くなる。
- 厳寒期、降雨日も換気する。
【昼間】十分に風を入れ、外気温に近づける。ハウスは屋根のみ（雨よけ感覚）。
25℃以上は厳禁！
※ 高温期に30～50%の遮光ネットは効果あり。
高温環境では徒長の助長、着莢が悪くなり、厳寒期の霜害を受けやすくなる。
- 【夜間】寒波の戻りだけ注意。最低気温が0℃以下に下がりそうな晩のみ夕方遅く閉める。
朝はよほどの寒波（日中も10℃以下）でない限り、日の出前に谷、妻、サイド完全開放。
- 最低気温5℃を保てれば夜間でも密閉する必要はない。

灌水・追肥

- 着莢位置の花が開花し始めたら、水を切らさないよう、小まめに灌水する。
水を必要とするので、乾燥させないように注意する。
- 【水不足の判定方法】
 - 成長点のしおれ
 - 莢の軟化
 - 成長点付近での葉のブルーム（白い粉）発生
- はじめは株元の近くで、徐々に株元から離していく。
- 収穫したら水やりを徹底。
特に高畝の圃場は、畝の乾き過ぎにより根が傷まぬ様、時々畝にも灌水する。
- 追肥は着莢し始めた頃から開始。
そのあとは草勢を落とさないように適宜実施。

6

収穫

適期を見極め、秀品を収穫

- 莢のふくらみ 7 分入りが適期。
→ 莢長 7~8cm、莢の厚み 1~1.3cm 頃が目安。ただし、各地の出荷基準に従うこと。
- 収穫が遅れると草勢が弱くなるため注意。
- 作業時は手袋することを推奨



- 最低気温 12°C以上の時期は樹がバテやすいため、なるべくこまめに収穫する。
- 特に高温期は莢厚 1.3cm 以下、若どり徹底を心がける。取り遅れは厳禁！！

7

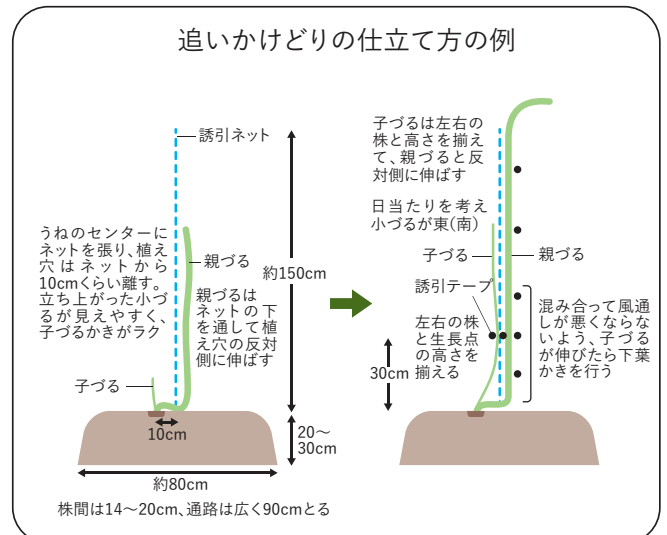
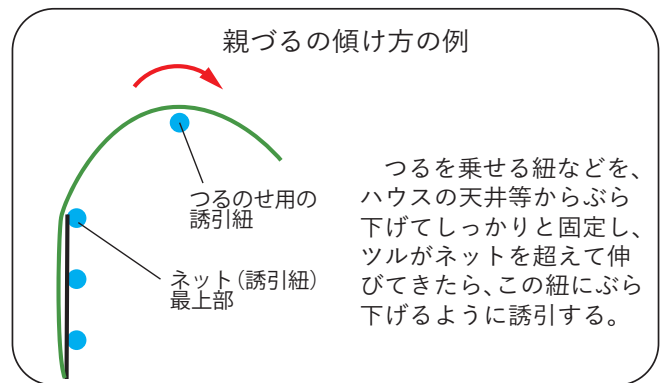
長期栽培

長くとり続け、収量upのために

- つる（親づる）が伸びてネットの上を越えるようになったら、上からぶら下げるようにして折り返す。

追いかけどり

- 主枝一本仕立てにて栽培（親づる）。このとき、親づるはネットの下を通して株元と反対側に伸ばし、誘引するとよい。（親づるがネットの北側（西側）になるように）
草丈 30cm 程度の頃、出てきたわき芽はすべてとる
- 親づるが 13~15 節（収穫開始頃）にでてきたわき目（子づる）を利用。3 本ほど出てくれば、最初と最後に発生した子づるは除去し、子づる 1 本を残し育てる。誘引の際、他の株の子づると高さを合わせておくと、作業性がよい。
- 子づるの伸長にあわせ、親づるの下葉かきをおこない、子づるの通気性を確保する。（混み合うと、病害の原因になる。）



8

病虫害防除

特に虫害が発生しやすい作物、
早めの防除が重要

- 病虫害は一度発生すると、沈静化するまで時間を要する。草勢が落ち、収量、そして秀品率の低下につながるなので、早めの防除に努めることが重要。

【主な病虫害】

病気：うどんこ病、灰色かび病、立枯病など

害虫：葉（菜）モグリバエ、スリップス、アブラムシ、
ヨトウムシ・アオムシ類他



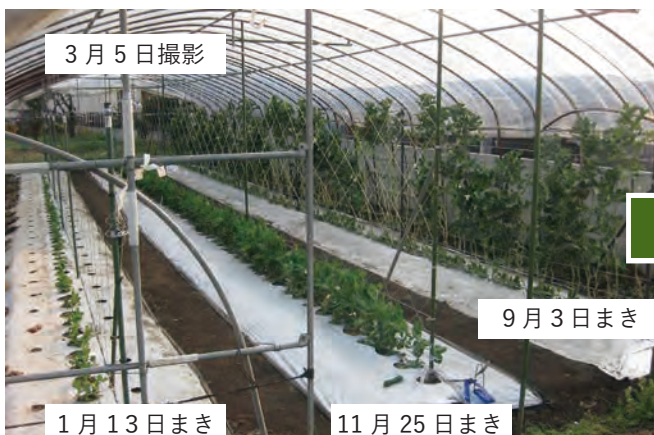
スリップスの食害

9

もしも・霜害、強風で痛んだら

株の状況見て樹勢の回復、または、まき直しで挽回！

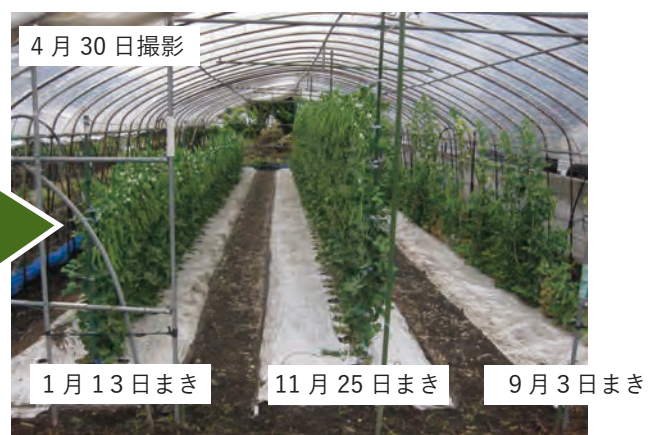
【播種時期による差異と霜害からの回復例】



9月3日まき（写真右）
通常11月から春まで出荷可能な作型だが、厳寒期に何度も2°C以下にさらされ、株が弱っている状態。写真の3月時点で回復しつつ、株元から脇芽が再生。

11月25日まき（写真中央）
屋根のみで管理。開花が厳寒期にあたり、凍害をうけつつも、3月から順調に生育。

1月13日まき（写真左）
厳寒期の最中に播種。4月下旬以降収穫の作型にあたる。
※ 前作にレタスを栽培、1月に収穫後、肥料を加えて播種。



9月3日まき（写真右）
4月上旬から収穫再開。越冬切り返しの疲れもではじめ、5月中旬頃に収穫終了。

11月25日まき（写真中央）
4月上旬に収穫を開始し、収穫のピークに達している。
1~2日おきに収穫を徹底する（収穫遅れは株の疲れを助長する）。

1月13日まき（写真左）
4月上旬に脇芽と低段の花芽かきを実施（重要な作業）。
撮影時点では収穫が始まったところ。11月25日まき以上に莢の膨らみが早まるため、早めの収穫を心がける。

11月まき、1月まきは5月から6月にかけて、どこまで収穫を伸ばせるかがポイント。遮光資材の早期展張、灌水、収穫の徹底が収量・収益のupに繋がる！



掲載品種の特徴やご購入に関するお問い合わせ等は最寄の取扱店、または弊社までお願いいたします。本誌掲載の記事、試験結果やデータ、グラフ、写真の無断転用を禁止します。

MIKADO ブランドはヴィルモランみかど株式会社の商品ブランドです

ヴィルモランみかど株式会社

〒267-0056 千葉県緑区大野台1-4-11
TEL:043-311-6100 FAX:043-205-5503

vilmorinmikado.jp 

